interview

海老名から世界へ

卓球選手 長崎美柚（ながさきみゆう）さん

「なつかしい！」久しぶりに来た大谷コミセンで。大谷の字名「真鯨（まくじら）」のクジラをモチーフにしたタイルの壁画を背に

東京オリンピック・パラリンピックの開催まで約1年半。オリンピック出場を目指し、日々練習に励む海老名市出身の卓球選手、長崎美柚さん(16)を紹介します。

始めたのは5歳の正月から

5歳の時に祖父母が通っていた藤沢市の「岸田クラブ」に連れて行ってもらったのがきっかけで、卓球を始めました。練習している人の少ない正月なら邪魔にならないだろうと。最初はラケットにボールを当てるのが精いっぱいでしたが、ゲーム仕立てでやっていたら楽しかったので練習を続けるようになりました。「スポーツするには左利き！」という母の思いで、私が赤ちゃんの時からスプーンやフォークを左手で持たせていたらしいんです。右手や左手で持ったりしているうちに、自然と左利きに定着したみたいですね。

卓球を始めたばかりの頃（6歳）

全日本卓球選手権大会バンビの部で優勝（8歳）

卓球中心の小学生時代

「岸田クラブ」には小学校まで通っていました。毎日、学校が終わった後に練習場へ。帰宅するのはいつも22時頃でした。当時は7月の全国大会で優勝することが一番の目標で、クラブで練習できない日は大谷コミセンに行ってサーブ中心の自主練習をしていました。卓球中心の日々だったので、年に数日しかないオフの日はとても貴重でしたね。オフの日は友達と大谷コミセンでドッジボールをしたり、大谷近隣公園の大きな滑り台を段ボールで勢いよく滑ったり、楽しく遊びました。低学年の頃は大谷近隣公園のターザンロープで滑ることが憧れでした。ロープに背が届かなかったんですよ。懐かしい思い出です。

大谷コミセンの児童遊戯室で

小学校卒業後 JOCエリートアカデミーに

小学校卒業後に海老名を離れ、JOCエリートアカデミー※(以下、アカデミー)に所属しました。現在は、東京都北区にある味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点に卓球をしながら学校に通っています。アカデミーは全寮制なので、いろいろな競技の選手とともに生活をしています。アカデミー出身で寮が一緒だったレスリング選手の須崎優衣さんが初めて世界選手権で優勝した時は、アスリートとしてとても刺激を受けました。須崎選手は人柄も良く、とても優しい選手なので、私も須崎選手のように人格と力量を兼ね備えた人になりたいと思いました。

※日本オリンピック委員会(JOC)が設置した組織。味の素ナショナルトレーニングセンターを拠点に、オリンピックなどの国際競技大会で活躍できる選手の育成を行っている。対象は中学生と高校生

変わりゆく海老名が楽しみ

海老名に帰るのは年1～2回程度。帰った時によく行くのは実家近くにある海老名サービスエリアです。ラーメンを食べたりお茶を飲んだり。お店が充実しているので飽きません。また、帰るたびに驚かされるのは海老名駅周辺の変化です。駅の西口には、ららぽーとができたし、2年後には鉄道博物館もできると聞きました。どんどん変わっていく海老名が楽しみですね。

オリンピックを目指して

現在は高校に通いながら、練習と国内外の試合をこなす日々です。昨年は福井国体に出場し、国際大会でスウェーデンにも行きました。東京オリンピックまであと1年半。卓球の出場枠は3人です。選考基準は試合の実績なので、国際大会で1度は優勝したい。私の原動力は、「1番になりたい！ オリンピックに出場したい！ 世界ランキング1位になりたい！」という気持ちです。ことしは「攻めの年」にしたいですね。

市民の皆さんへ

小学生の頃から多くの市民の方に応援してもらって、それを励みに「絶対に1番になる！」という気持ちで頑張ってきました。そのおかげで今があるのだと思います。皆さんの期待に応えられるよう、海老名を代表して、日本を代表して、さらには世界で活躍できるように頑張ります。これからも応援よろしくお願いします。

平成30年9月撮影

長崎美柚さん

海老名市出身の卓球選手。小学生時代に全日本卓球選手権バンビ・カブ・ホープスで3階級制覇。2018年全日本選手権ジュニア女子シングルス優勝。同年世界卓球選手権ハルムスタッド大会(団体戦)日本代表。海老名市若者定住促進事業の広告モデルも務めている。